

2025年度

授業概要

科目名	言語発達障害学Ⅰ				授業の種類	演習	講師名	
授業回数	15回	時間数	30時間	1単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	ST1年 後期
【授業の目的・ねらい】 言語聴覚士が関わる言語発達障害の定義や特性・支援方法などについて理解できる。								
【実務者経験】 言語聴覚士としてこども発達サポートセンター、こどもクリニックなどで発達障害児の言語聴覚療法に従事経験。								
【授業全体の内容の概要】 講義および個人ワーク・ペアワーク・グループワークを通して知識の習得と定着を図る。								
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 言語発達障害についての基礎的知識とそれらの特性について理解できる。 国家試験に則した基礎的知識を身につける。								
回数	講義内容						準備物(教材)	
1	言語発達障害①（定型発達）について理解できる						言語発達障害学教科書	
2	言語発達障害②（定型発達・ASD）について理解できる						言語発達障害学教科書	
3	言語発達障害③（ASD）について理解できる						言語発達障害学教科書	
4	言語発達障害④（ASD）について理解できる						言語発達障害学教科書	
5	言語発達障害⑤（ADHD）について理解できる						言語発達障害学教科書	
6	言語発達障害⑥（ADHD）について理解できる						言語発達障害学教科書	
7	言語発達障害⑦（SLI）について理解できる						言語発達障害学教科書	
8	言語発達障害⑧（LD）について理解できる						言語発達障害学教科書	
9	言語発達障害⑨（ID）について理解できる						言語発達障害学教科書	
10	言語発達障害⑩（CP）について理解できる						言語発達障害学教科書	
11	言語発達障害⑪（CP）について理解できる						言語発達障害学教科書	
12	言語発達障害⑫（支援技法）について理解できる						言語発達障害学教科書	
13	言語発達障害⑬（地域支援、連携）について理解できる						言語発達障害学教科書	
14	言語発達障害について説明できる						言語発達障害学教科書	
15	まとめ						言語発達障害学教科書	
	定期筆記試験							
【使用教科書・教材・参考書】 『標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第3版』医学書院 補助教科書『言語聴覚士テキスト 第4版』医歯薬出版								
【準備学習・時間外学習】 指定された教科書ページを予習し、講義終了後は講義内容の復習を行うこと。								
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施し、 60点以上の場合に科目を認定する。								